

日本ロシア文学会会報 第41号 2012年1月

1. 2011年度第61回総会報告 2. 10月・12月理事会関連事項
3. 「日本ロシア文学会賞に関する内規」の改正 4. 「日本ロシア文学会賞選考要領」の改正
5. 会員異動 6. 国際交流委員会からの新提案 7. 事務局からのアナウンス

1. 2011年度第61回総会 報告

第61回定例総会・研究発表会は、さる2011年10月8日(土)、9日(日)、の両日、慶應義塾大学日吉キャンパス独立館で開催されました。10月8日(土)の午後に開催された定例総会の主な内容は以下の通りです。

(1) 第8回日本ロシア文学会賞表彰

沼野会長より乗松亨平氏(単行本部門)と松本隆志氏(論文部門)に表彰状が授与された。

(2) 議長団選出

関東支部より上野理恵氏、中部支部より山路明日太氏、関西支部より木寺律子氏が選出され承認された。

(3) 会務報告

事務局より会員異動(2010年11月～2011年10月)について報告があり承認された。

(4) 各種委員会報告

(5) 2010/11年度決算と2011/12年度予算案について

2010/2011年度決算が事務局より説明された後、監事の井上幸義氏より会計監査報告があり拍手で承認された。ついで2011/2012年度予算案が事務局より説明され、これも拍手で承認された。

(6) 「日本ロシア文学賞に関する内規」の改正について

沼野会長より(3のように)提案と趣旨説明があり、拍手で承認された。

(6) 2012年度大会、2012年度4学会合同大会について

2012年度大会は2012年10月6日(土)、7日(日)に、4学会合同大会は10月7日(日)に同志社大学今出川校地新町キャンパスで開催されることが報告・了承された。

(7) 次期役員・各種委員会委員について(敬称略) (委員会は委員長だけを記した)

会長：沼野充義、副会長：諫早勇一、望月哲男、顧問：川端香男里、佐藤純一、米川哲夫、
理事：山田隆、望月恒子、黒岩幸子、金田一真澄、井桁貞義、井上幸義、臼山利信、貝澤哉、亀山郁夫、
坂庭淳史、佐藤千登勢、鳥山祐介、沼野恭子、野中進、長谷見一雄、村田真一、柳町裕子、郡伸哉、中澤敦夫、
佐藤昭裕、青木正博、大平陽一、岡本崇男、太田丈太郎、監事：高橋清治、源貴志、

編集委員長：服部文昭、学会賞選考委員長：桑野隆、ロシア語教育委員長：山田隆、
国際交流委員長：中村唯史、広報委員長：岩本和久、倫理委員長：安村仁志、
2012年度大会組織委員長：佐藤昭裕、2012年度大会実行委員長：松本賢一、事務局長：諫早勇一

2. 10・12月理事会関連事項

10月理事会は、10月8日(土)に慶應義塾大学日吉キャンパス独立館で、12月の理事会は12月17日(土)に東京大学本郷キャンパスで開催されました。主な報告事項および審議事項は以下の通りです。

10月理事会

■会員異動(入会1名、退会4名)——「5. 会員異動」の項参照。

■2010/2011年度決算ならびに2011/2012年度予算案

事務局より報告され、承認された。

■2012 年度大会、4 学会合同大会について

2012 年 10 月 6 日(土)、7 日(日)の両日、同志社大学今出川校地新町キャンパスで開催すること、佐藤昭裕大会組織委員長、松本賢一大会実行委員長および委員会のメンバー各 5 名が決定した。

■次期役員・各種委員会委員について

資料に沿って次期役員・各種委員会委員の紹介があり、副会長 2 名の留任と学会賞選考委員の選出については沼野会長より補足説明があった。

■学会費に関するワーキンググループの報告について

7 月理事会で立ち上がったワーキンググループの野中座長より中間報告があった。

12 月理事会

■会員異動（入会 5 名、退会 6 名）——「5. 会員異動」の項参照。

■各種委員会報告

学会賞選考委員会の桑野委員長より「日本ロシア文学会賞選考要領」が（4 のように）変更された旨報告があった。また、服部編集委員長より第 44 号より学会誌の判型を A5 判に変更することが報告された。

■2011 年度第 61 回大会の総括および会計報告

金田一大会実行委員長より大会の総括および会計報告があり、68,741 円が返金されたことが報告された。また、望月大会組織委員長より次年度から大会発表申請用の独自のメールアドレスを設けることが提案された。

■大会のあり方について

司会者の役割、報告時間と質問時間の配分などが議論され、7 月理事会で具体案を検討することになった。

■2012 年度第 62 回大会と 4 学会合同大会について

10 月 6 日（土）、7 日（日）に同志社大学今出川キャンパスで行われる大会については、懇親会は 7 日（日）に行い、プレシンポジウムは行わないことが報告された。また、望月 4 学会合同大会幹事より合同大会は 7 日（日）の午後 2 時から 5 時 30 分までを予定し、統一テーマは 2 月末までに決定したいと報告された。

■各種委員会の事業計画について

国際交流委員会から若手（非テニユア）会員を対象に「国際学会での報告への支援」と「公開研究会・（ミニ）シンポジウム等の実施に対する支援」を（6 のように）行いたいとの提案があり、本年度からの試行が了承された。

■学会費ワーキンググループの中間報告について

野中ワーキンググループ座長より原案が示され、「非テニユア職にある若手・中堅層への研究支援」のために特別会計をつくる、「学会在籍が一定期間を越える会員に対して」一般会費を免除して維持会費への協力をお願いするという基本的な方向を了承し、7 月理事会での審議を経て、10 月の総会での提案をめざすことになった。

3. 「日本ロシア文学会賞に関する内規」の改正

【これまでの内規】

第 3 条（選考委員会）

1. 日本ロシア文学会会長を委員長とし、各支部から推薦され、総会で承認された 10 名で構成する（関東支部 4 名、関西支部 2 名、その他の支部 1 名）。

【改正された部分】

第 3 条（選考委員会）

1. 委員会は、委員長および若干名の委員によって構成する。委員長および委員は理事会が委嘱する。

2011 年 10 月 8 日修正

4. 「日本ロシア文学会賞選考要領」の改正

日本ロシア文学会賞の新選考要領

1. (対象)

ロシア語、ロシア文学、ロシア文化等に関する研究で、日本ロシア文学会会員が対象期間内に発表した著書・論文を対象とする。論文については、日本ロシア文学会誌掲載論文を主たる対象とするが、それ以外の研究誌、紀要、論集などに収録された論文も対象となる。

2. (対象期間)

著書については毎年12月末日を期限とし、原則としてその期限以前およそ2年以内に刊行されたものを対象とする。論文については毎年12月末日を期限とし、原則としてその期限以前およそ1年以内に発表されたものを対象とする。

3. (選考過程)

日本ロシア文学会会員は、日本ロシア文学会誌以外の場に発表された業績を、一人1点に限り推薦することができる(自薦・他薦ともに可)。推薦にあたっては、推薦理由を400字程度で記し(書式は自由)、学会賞選考委員会に該当年の1月末までに提出する。

選考委員は、会員推薦の著書・論文も含めて、下記の要領で選考を行う

【対象者】

論文の場合は、基本的に若手・新進の学会員を対象とする。明確な年齢の基準は設けないが、専任職に就いていない者や、大学院生などを中心に考える。過去の受賞者は対象外とする。

著書の場合は、論文の場合よりも若干年齢が高めの者、専任職に就いている者も対象とする。また、過去に論文に対して学会賞を受賞している場合も対象外とはしない。

【選考方法】

各委員は、学会賞に値すると思われる著書・論文をそれぞれ上限3点まで選び順位をつける。最終的には7月頃の選考会で受賞者を決定する。著書のみ、あるいは論文のみが受賞の場合もありうる。

4. (要項の変更)

「日本ロシア文学会賞選考要項」を変更する場合は、委員会が作成した案を理事会に提案し、その承認を受ける。

なお、1月末締切の推薦文の提出先メールアドレスは prize@yaar.jp です。

5. 会員異動

[2011年10月理事会 12月理事会] (敬称略)

入会: [氏名(支部)専攻分野(推薦者)]

佐藤貴之(関東) ソヴィエト文学、比較文学(沼野恭子、前田和泉)、

渡辺圭(関東) ロシア教会史、ロシア宗教思想史(御子柴道夫、野中進)、

森田耕司(関西) スラヴ語学、言語学(井上幸和、岡本崇男)、

斎藤慶子(関東) ロシアバレエ史(伊東一郎、坂庭淳史)、

大塚えりな(関東) 18世紀・19世紀ロシア文学(金沢美知子、長谷見一雄)、

イワノワ・エレナ(関東) 近代演劇史、日露文化交流(上田洋子、貝澤哉)

退会: 中川由美(中部)、小川政邦(関東)、ミハイロバ・ユリア(関西)、萩原俊治(関西)、渡辺克義(西日本)、近藤大介(関東)、佐野洋子(関東)、鈴木玲子(関東)、能見孝一(関東)、ユルマノワ・スヴェトラナ(北海道)

6. 国際交流委員会からの新提案

以下が国際交流委員会からの新提案の骨子です。詳細はまたホームページに掲載される予定です。

1) 国際学会での報告への支援について：

- ・申請資格：次の3項すべてに該当する人
 - ①常勤職に就いていない人、②学振等の助成金を受けていない人、③科研の代表者になっていない人
- ・1件当たりの支援額上限：50,000円（ただし下記義務完了後の事後払いとなる）
- ・義務：報告記ないし学会印象記の執筆と学会サイトへの掲載。
- ・申請時の提出書類：渡航計画、招聘ないし主催学会の概要、申請者の参加予定を確認できる書類
- ・事後の提出書類：報告した学会のプログラム、航空券半券の写し、報告記ないし学会印象記

2) 公開研究会・(ミニ)シンポジウム等の実施に対する支援費

- ・申請資格：①申請者本人には特に規定はないが、国際交流促進の観点から報告者に国外居住の研究者ないし文化関係者が含まれることを必須とする。②若手育成の観点から、1)の「申請資格」に該当する人が、報告者に含まれていることが望ましい。
- ・1件当たりの支援額上限：20,000円（ただし下記義務①完了後の事後払いとなる）
- ・義務：①学会ホームページへの事前の告知と、開催後の概要報告の掲載、②支援費を受けた場合は、メール・ポスター・チラシ等の広報媒体に「協賛：日本ロシア文学会」と明記すること。
- ・申請時の提出書類：企画書A4版1～2枚程度（企画の目的、内容、参加者リスト、想定する聴衆〔専門家向けか一般市民向けか、等〕）
- ・第1回募集：1) 2) とともに2012年5月31日（実施時期が2012年12月までのもの）
書類送付先：中村唯史・国際交流委員長 tadashi@human.kj.yamagata-u.ac.jp

7. 事務局からのアナウンス

●今年の名簿発行の年ですので、現在事務局で把握しているみなさまのデータを同封いたしました。住所等のご変更の有無、掲載希望項目ご変更の有無につきまして、なるべくメールにて4月末日までに事務局までお知らせください。詳細につきましては同封のご案内を御覧ください。

●本年度分の学会費をまだ納入されていない方々には振替用紙を同封いたしました。学会はみなさまの会費によって支えられていますので、納入いただきますよう重ねてお願い申し上げます。

●本年度の大会は10月6日（土）、7日（日）に同志社大学今出川キャンパスで開催されます（プレシンポは行われず、懇親会は7日（日）です）。この時期の京都市は宿が混み合いますので、早めのご手配をお願いいたします。

●現在若手（非テニユア）の方々の支援のためのいろいろなプランが練られています。さまざまな情報を知るためにもぜひホームページを頻繁に御覧ください。

日本ロシア文学会会報 第41号 （2012年1月20日発行）
発行人 沼野 充義 編集人 日本ロシア文学会事務局
〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷
同志社大学言語文化教育研究センター 諫早勇一研究室内
電話：0774-65-7172
E-MAIL: yisahaya@mail.doshisha.ac.jp